



韓国ジャパンリポーター訪日団 招へい事業の記録

1. プログラム概要

【目的・概要】日韓関係の改善を基盤とした訪日プログラムの一環として、韓国全土から選抜された発信力のある大学生・社会人等 19 名が、9 月 26 日～10 月 2 日まで、今後の日韓間の相互理解と信頼関係の基盤強化に寄与することを主目的として訪日しました。一行はテーマ「『日韓交流おまつり in Tokyo』参加及び能登半島地震復旧状況視察」の下、東京都、石川県、福井県、愛知県を訪問し、各種視察、同世代交流、テーマに沿った講義聴講等を通じて、日本に対する理解を深めるとともに、プログラム中の学びや訪問地の魅力について SNS 等で発信しました。

【参加者】韓国の大学生・社会人等 合計 19 名

【訪問地】東京都、石川県、福井県、愛知県

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

9 月 19 日（金） 事前説明会（プログラム説明等）、参加者による対外発信

■ 招へいプログラム：

9 月 26 日（金） 成田国際空港から入国、【表敬】外務省、【講義】「最近の日韓関係について」、オリエンテーション

9 月 27 日（土） A グループ：【交流】「日韓交流おまつり 2025 in Tokyo」ブース運営参加を通じて日本の一般市民との交流（大学生訪韓団同窓組織メンバーと共に運営）
B グループ：「日韓交流おまつり 2025 in Tokyo」取材、【視察】李秀賢氏追悼・顕彰碑含む新大久保フィールドワーク

9 月 28 日（日） B グループ：【交流】「日韓交流おまつり 2025 in Tokyo」ブース運営参加を通じて日本の一般市民との交流（大学生訪韓団同窓組織メンバーと共に運営）
A グループ：「日韓交流おまつり 2025 in Tokyo」取材、【視察】李秀賢氏追悼・顕彰碑含む新大久保フィールドワーク

9 月 29 日（月） 石川県能登半島へ移動
【視察】地元の被災地支援活動関係者の案内と共に能登半島地震被災地復興状況視察（一部車窓含む）～輪島市：輪島出張朝市・輪島塗工房・世界農業遺産「白米千枚田」等北部海岸線沿い、珠洲市内：すずなり食堂・大谷小中学校等、他車窓からの海岸線沿いや仮設住宅等、七尾市へ移動、【講義】旅館関係者による被災者体験談

9 月 30 日（火） 【視察】のと鉄道語り部列車乗車、福井県福井市へ移動、
【講義】ホームステイ地域・福井の概要と魅力について、【交流】ホームステイ対面式、ホームステイへ

10 月 1 日（水） 【交流】午前中ホームステイ、ホームステイ解散式、愛知県名古屋市へ移動、アクションプラン・感想報告会準備

10 月 2 日（木） アクションプラン・感想発表会、中部国際空港から出国

2. 記録写真



9月26日【表敬・講義】外務省「最近の日韓関係について」



9月27～28日【交流】「日韓交流おまつり 2025 in Tokyo」ブース運営



9月27～28日【交流】「日韓交流おまつり 2025 in Tokyo」ブース運営



9月29日【視察】能登半島地震被災地復興状況



9月29日【視察】能登半島地震被災地復興状況



9月30日【視察】のと鉄道語り部列車



9月30日【交流】ホームステイの様子



10月1日【交流】ホームステイ解散式

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 韓国 大学生

今回の訪日で最も記憶に残るのは、能登半島地震の被災地を直接視察できた部分である。輪島市と珠洲市を中心に被災した様子、復興に向けて動き出している様子を見ながら、ニュース等でしか接したことのない地震の恐ろしさを直に感じた一方で、厳しい環境の中でも黙々と自分の居場所で最善を尽くし、復興しようとする方々の姿に感動し、深い印象として残っている。災害においても、諦めることなく、互いに助け合おうとする姿に、本当の復興があるのではないかと感じた。

◆ 韓国 大学生

東京の「日韓交流おまつり」で、これまでになかったぐらい様々な方々と交流することができて喜びの涙を流し、能登では被災された方々と思いを共にして涙を流し、福井ではホストファミリーとの別れが寂しく涙を流した。能登半島地震被災地視察直後に、のんびりとした田舎でのホームステイをしたことにより、普段の日常のありがたさにも気づくことができ、とても心に染みた。これらの涙は訪日団関係者の皆さんが築いてくれた新たなご縁の涙でもあり、決して忘れず、今後の人生の糧にしていきたい。

◆ 韓国 大学生

「日韓交流おまつり」やホームステイをはじめ、今回の訪日では本当に多くの日本の方々と会話を交わすことができ、日本人の文化や趣向、お互いの国への疑問点等について話し合い共有することができたのはとても有意義だった。また、韓国の文化が日本の皆さんにどのように受け入れられているのかについてもよく知ることができた。元々日本のことは好きだったが、日本人と話すような機会があまりなかったため、それは上辺だけで、今回の訪日を通じて、日本の人々に対しても、人間愛的な感情を持つようになった。このような機会を与えていただき、関係者の皆様に感謝申し上げたい。

◆ 韓国 社会人

最初、能登半島地震の被災地を訪問とする聞き、「復興作業の邪魔になるのではないかと、厳しい環境にいる方々や被災した状況を見学するようなプログラムがあってもいいのだろうか」とも思ったが、被災地でお会いした方々全員が「よくぞ来てくれた。復興に向け頑張っている私たちの姿を見てほしい。」「皆さんにお越しいただいたことで私たちも元気が出る。」等と大歓迎してくださったのがとても印象に残っている。そして、被災された当時の状況から復興に向けた今に至るまでの話をうかがいながら、被災者同士の協力やつながりから始まり、様々な模索をしている様子がよくわかり、そこには一般市民たちの自主的な力が大きく作用していることに気づけたこともとても有益であった。韓国は何かあると行政に頼りがちだが、日本のこのような姿勢や動きは大いに参考になると思う。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ JKAF（大学生訪韓団同窓組織：「日韓交流おまつり 2025 in Tokyo」でブース共同運営）

今回は訪日団の皆さんを迎えて、共に「日韓交流おまつり」でブースを運営することができ、大変有意義な機会となりました。訪日団の皆さんと協力して運営した「韓国の若者と語ろう」と「高句麗衣装着付け体験」ブースでは、老若男女を問わず多くの来場者と交流を重ねることができ、日韓国交正常化

60周年の節目に相応しいブースになったと思います。今回の経験を通じて、日本と韓国の相互理解とつながりが一層深まったのではないかと実感しています。

◆ 「日韓交流おまつり」の「韓国の若者と語ろう」ブース参加者

滅多に体験できない日韓一般市民同士が交流できる機会を与えていただき本当にありがとうございます。日本に興味を持ってくれている韓国の若者の日本への熱い気持ちが伝わってきましたし、韓国現地の話もたくさん聞けて勉強になりました。このような交流の積み重ねが、日韓の友好的な関係が広がっていくと感じました。おまつりの中で一番楽しかったです。



◆ 能登半島震災被災地案内人（能登半島現地にて震災復興ボランティア活動中）

この度は能登までお越しいただき、被災者の一人として心より感謝いたします。皆さんの応援から大きな勇気をいただきましたし、被災者でも日韓の交流に少しでも貢献できたと思うと嬉しくもなりました。私たち能登の復興はまだまだ道半ばですが、今回の視察を通じて、少しでも教訓となるようなことがあれば幸いです。このような災害は時と共に忘れられてしまいがちですが、私たちは決して風化させてはならない、永くこの記憶を伝えていければと思っていますので、皆さんも韓国に戻られた後、能登のことをたくさんの方々にお伝えいただければと思います。今度は是非復興した能登をご覧にお越しください。

◆ 福井県ホームステイ受け入れ家庭

韓国の皆さんを受け入れるのは2回目ですが、前回の皆さんがあまりにも素晴らし過ぎて、今回の受入れも決まった時から、韓国の皆さんが来たら何をしようかと迷いながら、きれいに掃除もしてずっと楽しみに待っていました。今回の皆さんも本当に素晴らしく優秀な若者ばかりで、益々韓国の人が大好きになりました。私たちも韓国で娘たちが頑張っていると思っていますので、皆さんにも是非私たちのことを日本のお父さんお母さんと思って、いつでもまた、ただいまと福井に戻ってきてほしいです。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

	<p>과거 조선통치자가 그랬던 것처럼, 오늘의 우리는 문화로 서로를 이해하고 존중하여 『현대적 통치사』가 되어야 한다는 메시지를 되새기는 시간이었습니다.</p> <p>이번 축제를 통해,</p>  <p>양국의 문화적 매력을 공유하고, 서로의 언어로 대화하며 진심 어린 우정을 나눌 수 있었던 소중한 경험을 하였어요!</p> <p>한국과 일본이 앞으로도 문화와 사람을 중심으로 더욱 가까워 지기를 진심으로 바랍니다.</p>
---	--

<p>2025 年 9 月 26 日 (Instagram : 外務省表敬)</p> <p>最近の日韓関係についての講義を聞きました。絶え間ない対話と交流を通じて、肯定的な雰囲気を引き継いできた韓日両国が国交正常化 60 周年を迎えた今、国際社会の問題を共に協力して導いていくことを希望いたします。</p>	<p>2025 年 9 月 28 日 (Instagram : 「日韓交流おまつり in Tokyo」)</p> <p>過去の朝鮮通信使がそうであったように、今日の私たちは文化でお互いを理解し、尊重し、現代の通信使にならなければならないというメッセージを刻んだ時間でした。今回のおまつりを通じて、両国の文化的魅力を共有し、お互いの言語で会話し、心からの友情を分かち合えた大切な経験をしました！韓国と日本が今後も文化と人を中心にさらに近づくことを心から願っています。</p>
 <p>日本文化院 リポーター 発行 기록 25.09.29 Day 4 (能登半島)</p> <p>4일차에는 도쿄에서 노토반도로 이동했습니다. 노토반도는 2024년 1월 1일 7.6 규모의 지진이 일어난 지역으로 현재까지도 지속적으로 복구를 하는 중입니다. 큰 지진이 일어났음에도 불구하고 1200년이 된 시장의 역사를 지키려는 마을 사람들, 전통을 대대 이어가는 공방 장인, 해산물 음식점을 이어가는 주인장 마을을 위해 가차들 만드는 아이들의 순수함과 이를 지켜주는 어른들 속에서 따스함을 느낄 수 있었습니다. 무엇보다 국가의 재해, 마을의 재해를 민간의 시도와 노력에서 출발한 것이 큰 감동이었습니다. 노토반도에 지속적인 관심을 가져주시기를 바랍니다 🙏</p>	 <p>자연이 아름다운 후쿠이에서 홈스테이를 했습니다! 일본 가정식 도 맛보고 정겨운 동네도 구경할 수 있었습니다. 🌸</p> <p>저희를 따뜻하게 맞아주시신 아라키상께서 일본의 다도 문화를 소 개해주셨습니다. 규칙과 순서로 이루어진 다도는 인생을 담고 있다는 말씀이 인상 깊었습니다. 차의 맛보다도 차를 내어주는 사람의 마음이 더 중요하다는 다도의 정신은 일본인의 삶의 태 도와 문화를 알아 있는 것 같았습니다.</p> <p>또한, 일본의 가정식과 가정 문화를 직접 경험하고 배울 수 있었 던 뜻깊고 소중한 시간이었습니다.</p>
<p>2025 年 9 月 29 日 (Instagram : 能登半島地震復興 状況視察)</p> <p>能登半島は 2024 年 1 月 1 日マグニチュード 7.6 規 模の地震が起きた地域で、現在も継続的に復旧を 行っている。大きな地震が起きたにもかかわらず、 1000 年以上の歴史を持つ朝市を守ろうとする 人々、伝統を守る代目の工房職人、海産物食堂を守 ろうとする人々、町のためにガチャを作る子供た ちの純粋さと、これを守ろうとする大人の方々の中 に暖かさを感じました。何よりも国家の災害、町 の災害復旧が民間の試みと努力から出発していた のが大きな感動でした。能登半島へ継続的なご関 心をお寄せください。</p>	<p>2025 年 10 月 1 日 (Instagram : ホームステイ)</p> <p>自然が美しい福井でホームステイをしました！日 本の家庭食も味わって、静かな町内も見学できま した。私たちを温かく迎えてくださった荒木さん から日本の茶道文化をご紹介いただきました。規 則と順序で構成される茶道には人生が込められて いるという言葉が印象的でした。お茶の味よりも お茶を出してくれる人の心がより大切だという茶 道の精神は、日本人の生活の姿勢と文化に似てい るようでした。また、日本の家庭食と家庭文化を直 接体験して学ぶことができた意味深く、貴重な時 間となりました。</p>



2025 年 9 月 27 日 (TBS 系列「報道特集」)
「日韓交流おまつり 2025 in Tokyo」に関するニュースの中で、本訪日団が運営した「高句麗古代装束着付体験」「韓国の若者と語ろう」ブースの様子が紹介。



2025 年 9 月 28 日 (テレビ朝日系列「グッド! モーニング」)
「日韓交流おまつり 2025 in Tokyo」に関するニュースの中で、本訪日団が運営した「韓国の若者と語ろう」ブースの様子が紹介。他にも Yahoo! ニュース等のネットニュース、韓国 KBS テレビニュース等でも多々紹介。



27일 개막한 한일축제한마당에 참여한 JKAF 청년들의 모습. [사진=일한문화교류기금]

부스운영에 참여한 JKAF측 코우키씨는 자신의 활동이 "한일 양국 우호를 다지는데 조금이라도 도움이 됐으면 하는 마음" 이라고 말했다.



일본 방문 한국 방일단
(전남문화재단 제공, 대문과 앞 2층까지)

(부산=연합뉴스) 박진태 기자 = 4(일) 부산광역시청에서 열린 '한일문화교류기금'은 이날 큰 교류 확대를 위해 '한국재해 복구'를 방일단' 사명을 명시했다고 5일 밝혔다.

이번 사업은 한국 청년 11명과 일본 방일단 11명으로 구성된 '한일문화교류기금'은 이날 큰 교류 확대를 위해 '한국재해 복구'를 방일단' 사명을 명시했다고 5일 밝혔다.



방일단은 현재 한일 수교 50주년 75주년 도래를 맞아 '한일문화교류기금'에 정기적 한국 방문을 위한 부스 등을 운영한다. 방일단은 5일 밝혔다.

2025. 10. 6. 14:00 ~ 14:30 (KST) 방일단 11명과 일본 방일단 11명으로 구성된 '한일문화교류기금'은 이날 큰 교류 확대를 위해 '한국재해 복구'를 방일단' 사명을 명시했다고 5일 밝혔다.

2025 年 9 月 28 日 (韓国紙：毎日経済 WEB 版)
『東京「日韓交流おまつり」で駐韓日本公館選抜韓国ジャパンリポーターたち JKAF 会員たちと共に日本市民たちと交流』と題し、「日韓交流おまつり」で運営したブースの様子を紹介 (日本語版有)。

2025 年 10 月 6 日 (韓国：聯合ニュース WEB 版)
「日本の災害現場を訪ねた韓国青年訪日団～民間交流拡大」と題し、訪日団の各プログラム (東京：「日韓交流おまつり」ブース運営、能登半島地震被災地復興状況視察、福井：ホームステイ) を紹介。

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（概要または抜粋を記載する）

	
<p>【成果の発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日韓国交正常化 60 周年という意義深い年に、「日韓交流おまつり」の場で日韓の若者同士が共にブースを運営し、能登半島では被災者の声を聴くことができ、ホームステイで日本の家族と共に時間を過ごす等、様々な人的交流の場を通じて、日韓両国の友好関係が間違いなく発展していていることを感じる事ができた。 ・どこに行っても、日本の皆さんが韓国へ大きな関心を寄せていることに驚き、様々な場で間接的ではあるが外交的な役割を果たすこともでき、自負心を感じることもできた。 ・特に能登半島地震被災地視察では、市民同士が協力しながら困難を克服しようとする姿を直に見ることができ、また当時の状況を忘れず後世に伝えていく「語り部」の存在を初めて知り、大きな学びとなった。 <p>【アクション・プラン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪日プログラムで学んだ様々なコンテンツを制作し、SNS 等を通じて積極的に発信する。 ・訪日で出会った方々と持続的に連絡を取り合い、日韓若者同士のネットワークを維持する。 ・JLPT 受験へ向けた準備をしていきたい。 ・中長期的には、日韓の枠にとどまらず、世界の共通課題について、日韓で何ができるか探求していきたい。 	<p>【成果の発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで興味をもって接してきた日本の文化や人々が、直接訪日して様々なプログラムすることにより、立体的かつ具体的に知ることができた。 ・また、日韓関係の確固たる構築のためには、民間レベルの持続的な相互理解と交流が必須であることも悟った。 ・特に、「日韓交流おまつり」ではブースを通じて多くの日本人と対話を重ねる中で、お互い気になっていることに向き合い何度も訊ね合いながら理解していくプロセスが大事であることを学ぶことができた。 ・能登半島地震被災地視察では、まだ復興半ばである中、懸命に生き、支え合いながら日常を生きていく人々と出会い、話を聴くことにより、日本社会が持つ強靱な回復力を目の当たりにすることができた。 <p>【アクション・プラン】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在韓日本大使館で実施される様々な日本関連行事に積極的に参加する等、協力していきたい。 ・能登半島地震被災地視察で学んだことをカードニュース等にして SNS 等で積極的に発信する。 ・JLPT 受験へ向けた準備をしていきたい。 ・今後も日本のニュースやトレンドはもちろん、能登半島をはじめとする被災地に持続的な関心を持ち続け、多くの人々に伝えていきたい。

実施団体名：公益財団法人日韓文化交流基金